

# 集落支援員だより

## 第35号

発行者 東和地域集落支援員  
連絡先 66-2490  
発行日 令和5年6月22日(木)

### どろんこ田植え体験 ~食物の大切さを知る~

「田んぼの学校」開催 東和小

5月26日(金) 県北農林事務所による「田んぼの学校」が催され、東和小学校5年生26名が参加し、布沢の菅野金一さんの棚田に「黄金もち」が植えられました。当日の気温は11度と少し寒い陽気でしたが、子ども達は寒さをもろともせず、素足で田んぼに入り、約1時間30分で10アールの田んぼが、子ども達の手で緑の田んぼへと変わりました。



今回は、食べ物の大切さを知り、自然環境の大事さに触れ、更には人と人の繋がりを養う事を目的に行われました。子ども達も今回の「田んぼの学校」に充分満足げ(どろんこ)な表情で、楽しく体験できたようです。



5月18日(木)、「青色から透明へ」私たちにできる「ゴミ分別」と題し、二本松市社会福祉協議会の高野桂子さんを講師に招き、学習会が開催されました。講師の高野さんからは、「年々プラスチックごみを、リサイクルされない青色の袋で出している量が増えている。透明の「プラスチック製容器包装」の袋に分別すればもっと資源として利用できる!物を買うときも、土に還り循環するものを選び、地球と子どもたちの未来のため地球温暖化防止に貢献しましょう。」とお話がありました。



参加者からは「今日話を聞いて良かった。プラスチックを水で軽くすすぐだけで、洗剤で洗う必要がないことが分かった。」「ゴミ分別で疑問に思っていたことが分かった」「もとみやクリーンセンターにも視察に行ってみたい。」などの声があがり、意識の高さを感じました。



手間をかけずに資源ゴミへ  
ゴミ分別意識を高める  
「いきいきサロン」農果あつまっ会」学習会

### ★農業の星★

鈴木宏和さん(安達)



きゅうりの選別をする 鈴木さん

今年の5月から針道の大槻昌広さん(針道上堰)のとこで、きゅうり栽培の研修生として働いている鈴木宏和さん。浪江町出身で、現在は安達に住まいを構えながら、日々研修に励んでいます。農業を始めるきっかけは知り合いの農家の勧めから。来年にはきゅうり農家として独り立ちを目指しています。夢の実現、応援しています!



## 健康管理は体を動かす事から



太田岩南あじさいの会  
代表 菅原文子さん



私達のいきいきサ  
ロン「あじさいの  
会」は太田若一区・  
川口上班19名の会員  
で結成し、夫婦で参  
加、そして大半が老  
人クラブ会員です。  
毎月第二日曜日午後  
七時～九時が開催日  
です。「健康管理は  
脚力の維持・アウト  
ドアの行事を中心  
に楽しく、歩けるう  
ちに大いに歩こう」を  
目標に年間の活動計  
画表を決定・全員参  
加で実行しています。  
コロナ禍で、感染  
対策をしながらの行  
事は、計画通りにい

かず心配でした。  
川口には4ホール  
の小さいグラウンド  
ゴルフ場、通称津田  
GGがあります。今  
年の春は、花もも・  
レンギョウ・ちご桜  
と、とてもきれいに  
咲き、安達太良山も  
一望にみえ、最高で  
した。でも計画した  
大会は雨降りで行  
できず残念でした。  
天候に左右されるア  
ウトドア行事は、曜  
日に関わらず、即  
日に声かけし、パーク  
G、松川浦・相馬・  
飯館・田村とでかけ  
ます。



サロンの連絡は、  
庶務・会計担当の河  
野さんがスマホライ  
ンで一斉送信。大変  
助かります。  
会員の方にも、や  
りたい事、やって欲  
しい事、情報発信を  
頼んでいます。  
体力、気力増進は  
もちろん、元気で楽  
しく笑顔で続けてい  
ける「あじさいの会」  
で頑張っていきたい  
です。

## 食の手仕事 麴づくり

吉田貴江子さん（戸沢）



吉田さんは、味噌、  
納豆、麴、三五八、  
ヨーグルトは自家製  
工夫しながら発酵食  
品を手作りし、家族  
の健康な暮らしを大  
事に行っているとい  
うことです。

「ネットワーク玄米」  
今回、お料理教室  
の勉強会で、麴づく  
りをするとのこと  
で訪問しました。  
甘酒と手作りのま  
んじゅうも振舞っ  
ていただき、美味し  
くいただきました。  
また、吉田さんは、  
県の「美を醸すふく  
しまナビゲーター」  
に認定され、今後の  
活躍も楽しみです。



## 地域の宝物を守る

### 「古四王尊」～常磐神社神像～

愛宕森の中段にあ  
る常磐神社には、目  
の神様「古四王尊」  
の神像が祭られてい  
て、毎年4月には氏子  
でお祭りをしている  
こと。神像は、水  
晶の目玉がはめこま  
れ、髭を蓄えた勇ま  
しい姿の木造だった  
そうですが、水晶の  
目玉が抜かれ痛まし  
い姿になっていたの  
を、前総代の高橋賢  
樹さんが見かね、こ  
の程全氏子で修復す  
るに至り、今年4月  
に完成。修復は、木

幡在住の人形師斎藤  
徹氏に依頼したとの  
こと。  
4月のお祭りで披  
露され、初めて見た  
人もいて、その勇ま  
しさに感動したとの  
ことです。



修復した古四王尊神像と氏子の皆さん

今から約1300年  
前、島根県出雲の国鳥  
髪池付近で「八岐大  
蛇」(ヤマタノオロ  
チ)が人畜を飲み込ん  
だりして、住民を悩ま  
せていたといわれています。  
高天原を追放になった  
天照大神の弟である  
「スサノオノミコト」  
が、オロチに酒を飲ま  
せ、その隙に退治をし  
たと言われています。



太田の蛇砥石

しかし手傷を負わ  
れたそのオロチの生き  
残り、日本全国に降り  
立ち、傷を癒したとい  
われ、方々で今も大蛇  
伝説が伝えられていま  
す。太田字蛇砥石もそ  
の一説であり、オロチ  
はその石を苦し紛れに  
舐め、傷を癒していた  
と言われている。石  
は長年の風雪に耐え、  
原型を留めており、今  
尚当時の様子が伺い知  
れるようです。  
場所は県道荻ノ田石  
沢線大学橋バス停より  
徒歩10分の奥まった山  
間にあります。

隠れ文化財  
〜東和オロチ伝説〜